



# 「グローバルスタディ科」は とっても不安。。。。

# さいたま市教組新聞

No. 2 2 3  
2016.3.18  
【発行者】  
さいたま市  
教職員組合  
048-641-6763

今年度5校をモデル校としてスタートしたグローバルスタディ科（略称GS）は、来年度から小中全校で小1から中3まで実施されます。5校で行ってきたことをもとにして小学校での様子を中心に紹介します。

まず時間数は、小学校低学年10時間（授業時数の余剰時間で）、中学年17時間、高学年52時間です。中・高学年は総合的な学習の時間を減らして行います。「総合」の年間指導計画は、削減したものを作成します。2017年度はさらに低学年17時間、中学年35時間、高学年70時間になります（「総合」は17時間）。市教委がカリキュラム例を作成し、近く各校に配布する予定のようです。教育課程はそもそも学校で作成するものなので、いかように変えてもよいものです。

## 準備 打ち合わせは？

グローバルスタディの1時間を行うために、準備・打ち合わせはどうするのか、

どうしているのかということです。大戸小からは、打ち合わせの時間は空き時間を設けて1時間打ち合わせに使っている、それが取れない場合昼休みや放課後の時間を活用して行っているとの報告（概略）。

## 評価はどうするの？

教科として行うので、評価が必要です。準備がうまく行えたとしても、授業中に一人ひとりの様子を見ての評価はかなり難しいのが実態です。大戸小の資料では、児童の「ふりかえりカード」（授業後に記載）がありました。通知票にどう記載するのか、要録へは？

## GSのスタンスは？

ALTやスクールアシスタントのスタッフは確実に配置されるのかということ。予算が伴うので今の時点では答えられないとのこと。ちなみに、グローバルスタディの予算としては3億7600万円あまりが予定されています。小学校ではほとんどの教員が英語の免

許が無く、高学年は週あたり1.5時間になり、各週2時間実施するための準備打ち合わせは時間をかけないと難しいでしょう。教材の準備も必要で、時間を要します。

文科省や中教審でも、小3から実施の予定で計画しています。低学年については考えていないのです。日本語学習でさえ、国語としての学習が始まったばかりなのに。アルファベットについては全国の先進モデル校でも多くは高学年実施に。グローバルスタディとしては中学年から行っていくようです。

そもそも小学校で英語が必要なのかという議論があります。手軽に読める昨年出版された新書を紹介しておきます。

- ★永井忠孝『英語の害毒』新潮新書
- ★施光恒『英語化は愚民化』

集英社新書

★バトラー後藤裕子

『英語学習は早いほど良いのか』

岩波新書

